



柳沢中学校だより

朱雀の翼



西東京市立柳沢中学校
校長 浅野 周子
電話番号 042-463-5014
FAX番号 042-462-3104
令和6年2月28日第10号

本当に大切なことは1人の時間が教えてくれる



2月のキーワードは「対話」。4月から柳沢中学校でいろいろな場面でいろいろな人とコミュニケーションをとってきたと思います。同じクラスの人、同じ班の人だったり、委員会の人だったり、部活動の人だったり、友達や先生だったり。今年度のまとめの時期とともにクラス解散の日も近づいてきています。

ぜひ、残りの日々を大切に過ごしてほしいと思います。縁があって同じ時を過ごしてきたこと、これも奇跡（ミラクル）だと思いませんか。

特に3年生は、1か月後には柳沢中ではない違う場所で新しい生活が始まります。今いるこの時を大切に過ごしてください。

そして、「対話」には自分と向き合う対話もありますね。「本当に大切なこと」は1人の時間が教えてくれるのだそうです。自分と向き合う1人の時間。

野口健さんという登山家、環境活動家、アルピニストがいます。7大陸最高峰世界最年少登頂記録を25歳で達成した方です。日本では、全国の小中学生を対象とした「野口健・環境学校」を開校したり、ネパールに学校をつくるなど積極的に環境問題に取り組んだりしています。ヒマラヤ遠征中にネパール大震災に遭遇し、「ヒマラヤ大震災基金」を立ち上げました。

能登半島地震による避難所に世界中から寝袋を集める活動をしていて、「時の人」にもなっています。

この野口さんの出版本に書かれていた一部を紹介します。『ヒマラヤで悪天候に見舞われると1週間くらいテントの中に閉じ込められる。忙しい毎日をずっと走り続けていた足を止められてしまう。そんなときはじっくりと自分と向き合って会話をする。毎年2回はヒマラヤ登山に行くのが当たり前になっていたが、コロナ禍でヒマラヤどころか国内の登山もできなくなった。コロナ禍後に久しぶりに登山し、自分と向き合う時間ができたとき、自分の原点を思い出した。僕の登山はハヶ岳から始まり、“いつかはヒマラヤに登る！”という夢をもって日本の山でコツコツと練習を重ね、25歳のときにエベレストの登頂に成功し、世界最年少での七大陸最高峰登頂につながった。久しぶりのハヶ岳登山で原点に戻り、また1からスタートしようという気持ちになった。だから僕の場合は、自分と向き合い、「原点に戻る」ことで気持ちを切り替えることができる。』

忙しい毎日でなかなかふっと止まる機会がないと思いますが、自分との時間をつくって自らと向き合い、自分の原点は何だったのか、これからを考えるきっかけにできたらいいですね。本当に大切なことは1人の時間が教えてくれるのですね。

本物、いいもの、一流と言われているものを見る

ほんもの、一流とは何か。一流とは、その分野ですばらしい成果を上げ、世の人たちに刺激やよい影響を与える人たちや「もの」のことです。彼らは卓越した技術、スキルや姿勢をもち、自分の目標に向かって進んでいます。

なぜ一流を見ることが大切なのでしょう？それは、一流の人たちは目標達成の秘訣や方法を知っているからです。例えば、スティーブ・ジョブズ。彼はAppleの共同創業者であり、世界的なビジョンをもつイノベーターでした。ジョブズは「自分が信じることを追い求めることが、人生を変える力を生み出す」と言っています。成功者が掲げる言葉や行動を見ることで、私たちは自分の目標に向かって進むヒントを得て成長することができるのです。だから、成功するためには、一流の人たちの言動を見ることがとても重要なのです。彼らの経験や努力を知ること、私たちは同じ道を歩む際に避けるべきことや成功への近道を学ぶことができるのです。

また、一流を見ることがモチベーションの源にもなります。私たちと同じ人間、頑張れば夢を叶えることができるのだと信じて努力していくことができます。

みる
一流を

上級学校講話



2月8日 近隣の都立普通科高校、都立専門科のある高校、私立高校3校の先生方をお招きして高等学校についてお話を聴きました。「都立学校と私立学校の違い」、「上級学校に進学する意味」から始まった進路学習。高校の先生方の生の声を聞き、上級学校に対する意識や考えが変わったのではないのでしょうか。どの先生もスライドを投影し、分かりやすく、興味をもつ内容で、生徒が講話に引き込まれていく姿が印象的でした。顔を上げ、話し手の目を見て集中してメモを取り、真剣そのものの聴く態度に感心しました。質問にもきちんと答えていましたね。

3年生は今、都立一次前期入試が終わり、合格発表を待っているところです。2年生は、1年後にどのような進路になっているかは自分次第です。この1年間を有意義に過ごしてください。そして、すばらしい未来をこの手でつかみ取りましょう。

保護者の皆様におかれましてもお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。(副校長 小西)

新入生保護者説明会

2月9日 令和6年度に本校に入学する予定の生徒の保護者会が開かれました。本校の教育目標をはじめ教育活動や生活のきまりなどを各担当教員から説明させていただきました。少子化の波は柳沢地域にも寄せてきており、児童数・生徒数の減少、それに伴う教員数や部活動数の減少など現状もお伝えしました。今後も小規模校のよさを生かしながら、魅力ある学校づくりに取り組んでまいります。



1月11日学校保健員会



2月9日新入生保護者会

地域とつながる



2月24日避難所協議会



2月22日PTA運営委員会

学校運営協議会

2月2日 第4回協議会が開催されました。お忙しい中、地域の皆様に越しいただき、柳沢中の生徒の活動報告や課題や相談などにご助言をいただきました。今後の教育活動の充実に向けて生かし、「地域とともにある学校」づくりにさらに取り組んでまいります。

柳沢地区は、地域の方々のご理解やご協力を得ながら、地域の子どもたちを地域と学校が連携し、みんなで見守り育てている実感がある、とても温かい地域です。

朝の検温やあいさつ運動、放課後学習教室や放課後の居場所=ヤギカフェ、花壇ボランティア、地域清掃など様々な場面で地域の方々にご支援いただき、大変ありがたいことです。

今回の学校運営協議会では、生徒及び保護者、教職員に行った学校評価アンケートの結果をお示しました。現在、第三者評価をいただいているところです。今後は、評価やご助言などをまとめたものを3月の学校運営協議会で確認し、柳沢地区の子どもたちとして「どのような子どもたちに育てていきたいのか。」地域の願いやビジョンをご提案いただきます。学校と地域が連携・協働しながらより魅力ある学校づくりを行っていかれたら、と考えております。

さて、柳沢中の一部の生徒であります。登下校時に大きな声を出す、歌を歌う、立ち止まって話し込む、じろろ見るなどよくない状態だったため、地域住民の方からお叱りを受けたことが何度ありました。全校生徒には、朝礼や学活で注意喚起しておりますが、ご迷惑をおかけしましたことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

柳沢中学校の生徒の皆さんには、柳沢地区にある学校として地域の皆様に感謝の気持ちをもちながら、あいさつや地域行事のボランティアに参加し、地域を盛り上げていってほしいです。

柳沢地区は、皆さんにとっては「故郷ふるさと」になります。何年かして、就職などで柳沢地区を離れることもあるかもしれません。しかし、いつまでも心の故郷（ふるさと）として大切にしてほしいです。もしかしたら、懐かしく訪れることもあるでしょう。故郷のために貢献することもあるかもしれません。そんなことを願いながら、「地域に貢献する心」が育ってくれたらいいなと思っています。

学校運営協議会委員の皆様は9人です。

会長 蚊野様：元市内小・中学校校長

副会長 高城様：武蔵野大学教職員センター室長

武田様、栗田様、北澤様 星出様、島崎様、篠宮様、竹原様

